

## 新年のご挨拶

皆さま、新年明けましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2019年、平成最後の新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年も多くの患者さんをご紹介いただくなど、当センターの運営にご協力いただきましてありがとうございました。本年も、どうぞよろしく願いいたします。

当センターは、昨年11月大阪府の小児救命救急センターの認定を受けました。皆さまのご協力とご理解をいただき小児救急医療に取り組むことで、ますます地域に貢献できるよう努力いたします。

当センターでは、高度・専門的医療を提供することを大切にしていくとともに、ローリスクな妊産婦も担当し、小児の内科・外科疾患に幅広く対応していきたいと思っております。もちろん、周産期・小児医療の専門家集団として常に質の高い医療を提供することが使命と考えています。

昨年は、大阪北部地震、西日本豪雨、2つの大型台風の直撃など自然災害が集中して起こりました。当センターは地域の小児医療の災害拠点としての役割を果たさなければならないと考えています。その第一歩としてまず、本年度中には事業継続プランを策定予定です。災害時にも皆さまのお役に立てるよう準備したいと思っております。



総長 倉智 博久



病院長 川田 博昭

新年明けましておめでとうございます。当センターの4つの基本方針のうちのひとつである「地域と連携して母子保健を充実させます」に則り、昨年もいくつかの取り組みを行ってまいりました。中でも、4月1日に8床の急性期病棟を再開棟し、救急患者さんの受け入れ態勢を強化したことは、すでにお伝えしておりますが、加えて11月1日には「小児救命救急センター」の認定を受けることができました。

また、3月1日に開設しました地域診療情報連携システムである「南大阪 MOCO ネット」では、パートナーになって頂いた方々に感謝いたします。その対象を徐々に拡大し、訪問看護ステーションの皆さまとも協力して推進しております。この事業は、単に患者さんをご紹介いただいたり、当センターから紹介させていただいたりするだけでなく、皆さまと一緒に良い医療を推進する、真の医療連携であると考えております。最後に、昨年も顔の見える医療連携として地域医療連携研修会を開催し、たくさんの方々にお越しいただきました。改めてお礼申し上げます。

本年も、未だに高いとの声もある「当センターの敷居」をさらに低くして、医療連携を強化する所存ですので、皆さまのご支援のみならず、ご協力をよろしく願い申し上げます。

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

## 診 療 科 の 紹 介

### 小児循環器科

小児循環器科は開設 37 年になります。患者さんが就学し社会人になっていく中で、私達も学校心臓検診に加わり、就労の初期対応、妊娠出産に関わり、成人病院への移行に取り組んできました。今回は生まれ変わった小児循環器科を紹介いたします。

2011 年に不整脈の専門家として青木寿明医師を迎え、胎児から成人に至るまであらゆる不整脈に対応しています。ICD を含む不整脈デバイス治療が可能で、2017 年にはアブレーションも 19 件行っています。

2016 年に心不全の専門家として高橋邦彦医師を迎え、大阪大学との密な連携のもと、重症心不全の管理が充実しました。

2018 年には胎児診断の専門家として石井陽一郎医師を迎え、胎児期から関連する診療科（産科 / 新生児科 / 集中治療科 / 心臓血管外科 / 小児外科 / 麻酔科など）と協力し、重症の胎児心臓病に対応しています。

これを機に“つながる”胎児エコーみらいの会という勉強会を皆さまと一緒に始めています。案内を病院ホームページに毎月アップしていますので、お気軽にお越しください。



小児循環器科スタッフ

#### 平成 29 年実績

先天性心疾患 343、不整脈 49、心電図異常 40、川崎病 10、心筋疾患 11（人）  
心エコー 4887（胎児 255）件、  
心カテ 408（治療 142）件、  
ホルター 295 件、トレッドミル 103 件



心疾患が疑われたらお気軽にご紹介ください。

（小児循環器科 主任部長 萱谷 太）

## 保 育 士 の 紹 介

今年度から常勤の保育士が3名採用され、非常勤も合わせて19名の保育士がいます。保育士は、新生児から学童といった幅広い年齢の子どもたちと日々関わっています。

子どもたちは、制限された環境の中でつらい治療と向き合いながらも日々成長・発達しています。本来ならば、子どもたちは、家族や友だちなど社会からたくさんの刺激を受けて成長・発達していくのですが、病院では、治療が優先するため、経験や活動範囲が制限され、そのストレスにより本来の姿を保てず感情のコントロールが難しくなってしまふことがあります。そんな子どもたちにとって、保育士との関わりは貴重な時間です。

保育士は、子どもの発達に合わせた遊びを用意し、一緒に遊び、楽しさを共有し、病棟の中でも季節を感じられるように、ハロウィンやクリスマス等のイベントを企画し、子どもたちに様々な経験ができるようにしています。

また、子どもだけでなく、子どもに付き添う家族の声を拾い、不安や葛藤等、様々な思いを受け止め、子どもとその家族に寄り添うことができるようにサポートしています。

今日も子どもたちは「ピンク」の服をきた保育士を見つけて、今日はどんな遊びをしてくれるかとわくわくした笑顔で待ってくれています。そんな子どもたちが大好きです。

（保育士 和田 有加）



保育士スタッフ



## 石田こどもクリニック

〒594-0041  
大阪府和泉市いぶき野5-1-2-2F  
TEL：0725-50-2415

石田 博 院長



2011年5月に開業された小児科・小児神経内科のクリニックです。クリニックでは火曜日の午後は予約のみの専門外来とし、てんかん・発達障害・夜尿などの患者さんに時間をかけて診療されています。中には、20歳代の患者さんも診ておられます。

石田博先生は、「自身は無愛想だが『説明は簡潔に、病気はしっかり治そう』をモットーで診察にあたっています」と話されていました。

週1回は和泉市立総合医療センターの専門外来（てんかん外来）に行っておられます。

当センターへは小児外科や耳鼻科などの外科系疾患の患者さんを中心に紹介していただいています。



クリニックの待合室は熱帯魚が迎えてくれる癒しの空間です♪



趣味  
野菜や花の栽培や魚を育てたり、鑑賞すること。

当センターの印象  
予約時の地域連携（初診予約）の対応がテキパキしており、非常によく機能している。土日・時間外に送りやすくなった。

当センターへの要望  
返書はあるが、確定診断後の治療方針やその後の経過について情報提供してほしい。

## News

### 研究所の研究成果が外国雑誌 Nature Communications に掲載されました

当センター研究所病因病態部門吉田千春主任研究員、松尾勲部長らを中心とする研究グループが、表皮(将来の皮膚)の組織が、強固になることが神経管の閉鎖に必要であることを発見しました。

今回、神経管を包み込む表皮が物理的力に対して頑強になる仕組みを明らかにしたことは、メカニカルストレスに対する表皮の機能低下が二分脊椎などの神経管閉鎖不全症候群の発症原因となっている証拠となるものです。将来的には、表皮の脆弱化を予防・回復させることで、新しい治療法開発への道を開くことが期待されます。

この成果は、10月3日付科学誌ネイチャー・コミュニケーションズ(Nature Communications)誌に発表されました。

10月5日(金)、総長同席のもと記者会見を開催しました。ご参加いただいた報道記者からも多くの質問が寄せられ、注目度の高さを感じました。

当センター研究所の4部門では、周産期・小児発達期における疾患の原因解明と治療法の開発をめざして研究をおこなっています。これからも病院との連携を深め、臨床に還元できる成果を得よう努めてまいります。

この研究成果につきましては、センターホームページをご覧ください。

<https://www.wch.opho.jp/center/activities/press.html>



## 無痛分娩教室のご紹介

当センターでは、毎月麻酔科医と助産師による無痛分娩教室を開催しています。

助産師からは分娩期の過ごし方と妊娠中の体づくりについて、麻酔科医からは無痛分娩の方法やそのメリット・デメリットについて時間をかけてゆっくりとご説明をし、皆さまからのご質問にお答えしています。

分娩方法の1手段として、痛みを和らげる無痛分娩という方法を正しく理解していただき、より満足いただけるお産をご提供できればと考えております。

当センターホームページ「無痛分娩」のページを是非ご覧ください。  
[https://www.wch.opho.jp/ninpu/index\\_02.html](https://www.wch.opho.jp/ninpu/index_02.html)



## 南大阪 MOCO ネットを拡大しました



当センターでは、在宅医療の充実・推進のため、地域診療情報連携システム「南大阪MOCOネット」を運用しています。この度、利用対象施設を診療所だけでなく、**訪問看護ステーションにも拡大しました。**

これからも接続機関を増やしていき、患者さんの地域での生活がより安心・安全で有意義なものになるようにしてまいります。

地域の先生方のご協力をお願いします。

## 第5回地域医療連携研修会を開催しました



研修会へは院外より57名の方にご参加いただきました

2018年9月15日(土)あべのハルカスにて「地域医療連携研修会」を開催しました。

第5回目の今回は、内閣官房参与・慶應義塾大学名誉教授であります吉村泰典先生をお招きし、『わが国の少子化を考える ～子育てから始まるまちづくり～』と題して講演いただきました。

当センターからは、小児神経科が『てんかんについて』、小児外科が『小児の内視鏡外科手術・傷が目立たない手術』について紹介いたしました。



情報交換会では、「顔の見える連携」の一環として、恒例の診療科部長紹介を行うとともに、日頃の連携についての課題等意見交換を行うことができました

## 小児救命救急センター

大阪府から府内の3医療施設が小児救命救急センターの認定を受けました。当センターもそのひとつで、2018年11月1日から運用を開始しています。救急搬送の患者さんを積極的に受け入れていきます。

## 子育てフェスタ2018を開催しました

10月13日(土)に子育てフェスタを開催しました。当センターで10年以上つづく地域の育児サークルによるバザーのほか、企業の協賛もあり、500名を超える家族連れでにぎわいました。

白衣を着て聴診器で心臓の音を聞いたり、赤ちゃん人形を抱っこしたりするコーナーには多くの子どもたちが集まりました。

栄養部のブースでは子どもたちがカードで楽しく学びました。

おおさか多胎ネットやセブンイレブンのブースも盛況でした。



## イブニングセミナーのお知らせ

\*大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されています。

引き続きイブニングセミナーを開催いたします。事前申込みは不要です。直接会場にお越しください。

対象 医療関係者 時間 17時30分～18時30分 場所 研究所大会議室

日程	テーマ	担当部署	講演者
2019 1/23(水)	小児の画像診断	放射線科	西川 正則
2/7(木)	こどもの長引く咳、くり返す喘鳴呼吸	呼吸器・アレルギー科	錦戸 知喜
3/6(水)	小児の遺伝医療：健康管理と遺伝カウンセリング	遺伝診療科	岡本 伸彦

ご参加をお待ちしております。



## 交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分  
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 MAIL：chiren@wch.opho.jp

医療者対象  
ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】

☎ 0725-56-1070

【小児がん・  
白血病ホットライン】

☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。

医療連携ニュース No.22- 4